

ぎふの 埋蔵文化財

53

2008.11.1

岐阜県の埋蔵文化財
情報が満載



タイムスリップ探検隊美濃会場
岩田西遺跡



古墳時代の木製農具
野内遺跡出土



縄文土器
有坂薬師堂遺跡出土



特集 平成20年度 発掘速報展 「発掘された飛驒・美濃の歴史」 見どころのご案内

教育普及活動報告

夏休みキッズ考古学、タイムスリップ探検隊、出前授業、職場体験

考古学教室⑭
縄文時代の食について

あゆみ
現地説明会の報告ほか

センター掲示板
発掘調査報告会の報告ほか

センターの行う教育普及活動の報告



夏休みキッズ考古学

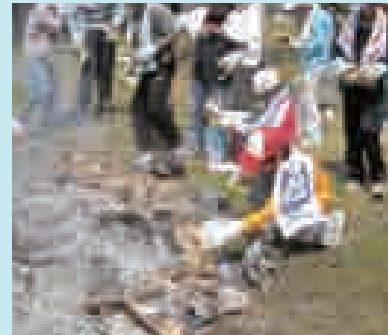
「縄文時代へタイムスリップ～わくわく土器・土器大研究～」と題したこの企画も4回目となりました。今年度は7月22日(火)・23日(水)・8月20日(水)の3日間の日程で行いました。最初は土器の種類や文様のつけ方を学んで、オリジナルの縄文土器の設計図制作にチャレンジしました。この設計図をもとに実際に、土器づくりに挑戦しました。3日目はいよいよ1ヶ月の乾燥をへて、土器の野焼きを行いました。うまく焼けるか不安もありましたが、参加者のみなさんが暑い中、火に近づいて作業した、まさに汗の結晶の結果、なかなかよい仕上がりとりました。

参加者の一言感想

- ・割れてないかと心配でしたが、見に行ったとききれいに焼けてすごうれしかったです。
- ・設計図通りにはいかなかったけどとてもいい出来と自分でも思えました。
- ・粘土ひもをつなげるのが難しかったです。
- ・1学期に学習した縄文時代についてもっとくわしく、それも楽しく土器をつくることができたので、すごくいい思い出がたつことができました。



土器づくり



野焼き

出前授業

毎年、文化財保護センターには「学校の児童・生徒に対して、埋蔵文化財を活用した歴史の授業をしてほしい」という要望があります。

4月から夏休みまでに、3つの学校・団体から要望がありました。県内で発掘された遺物(主に土器)を資料に、ふるさとの歴史に興味と誇りをもち、さらに埋蔵文化財に関心を持ってもらえるような出前授業を行いました。

4月15日(火) 岐阜市立三輪北小学校5、6年生

遠足で、関市の塚原遺跡公園に出かけるにあたり、縄文時代の暮らしについての事前学習を行いたいとのことでした。

最初に県内出土の縄文土器と須恵器の破片を実際に触り、縄文土器の特徴を見つけました。さらに、縄文時代の石器や木製品(レプリカ)などを参考に、当時の暮らしについて考えました。「縄文時代の土器は、本当に文様がつけてあるんだなあ。」「岐阜県にも縄文時代から人が住んでいたんだね。」「縄文の人たちは、その土地でとれるものを食べていたんだ。」などの感想や発表がありました。

6月24日(火) 岐阜県立不破高等学校3年生

社会科の選択の授業で「地域を知ろう」というテーマのもと、西濃地方の歴史や文化についての学習が進められていました。その一単位として「大垣市の荒尾南遺跡」について詳しく学習をしたいということでした。

発掘調査についての理解とともに、身近な所で現在発掘中の遺跡の特色を説明しました。実際に荒尾南遺跡で出土した土器を見て、発掘調査現場の写真を見ることを通して、弥生時代の終わりから古墳時代の大垣の荒尾南地域の様子に関心を持つことができました。

8月6日(水) 明宝チャレンジクラブ4～6年生

毎年、郡上市の明宝地区の小学生は、夏休みに埋蔵文化財を通してふるさとの歴史を学習しています。今年度は、縄文土器を見ながらそれぞれの文様について考えました。さらに、実際に粘土をこねて、縄文土器風の小カップを作りました。

「土をこねるのは、大変だ。」「本当に4000年も前に、岐阜県でこの土器が使われていたんだ。」「縄文というけれど、文様は縄だけでなく、竹や貝がら等も使って付けていたんだ。」という感想を話してくれました。地元にある「明宝博物館」に行った時は、縄文の資料をもっと詳しく見てみたいということでした。



土器から当時の暮らしを考える児童



土器の特徴を観察する生徒



土器の文様に見入る児童

タイムスリップ探検隊

今年も飛騨(7月24日三枝城跡：高山市上切町)・美濃(7月31日岩田西遺跡：岐阜市岩田西)の2会場で、「タイムスリップ探検隊」と題した親子による発掘体験活動を行いました。発掘体験はもとより、土器片を洗ったり、拓本をとったりする作業、遺跡見学など、大昔の世界にタイムスリップした1日でした。

参加者の感想

飛騨市 Aさん

土器洗いや発掘、拓本などどれも楽しくおもしろかったです。特に土器洗いは作業員さんが優しく教えてくれて、つい夢になってしまいました。あと、拓本や発掘などはうまくできてよかったです。このようなめったにできないことができ、とても良い経験になりました。

岐阜市 Bさん

私は夏休みの自由研究で「遺跡」についてやることにしたので参加しました。発掘をする時、地道な作業を続けていかないとダメだけど、その分、破片を見つけた時の喜びは大きかったです。茶碗の下の方とか、たくさんの遺物が発見できました。説明が分かりやすかったので、楽しくあつという間の時間だったと思います。土器を洗うのもコツがいるから難しかったけど、洗う前と洗った時のちがいがすごかったです。「拓本」では和紙がやぶれやすかったけど、なんとかうまくできました。今日1日、とても楽しかったし、職員や作業員の方にお世話になりました。ありがとうございました。



発掘体験



拓本体験



タイムスリップ探検隊飛騨会場
三枝城跡

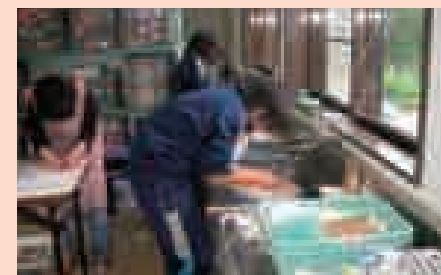
職場体験・発掘体験・遺跡見学など

今年も夏休みなどを利用して、多くの児童生徒の皆さんが、当センター三田洞事務所や飛騨出張所、各発掘調査現場を訪れ、職場体験や遺跡見学、発掘体験などを行いました。多くの方が勤労の大変さ、そしてそれに勝る喜びを感じ取りながら体験を終え、埋蔵文化財の保存・保護といった、当センターの役割を理解し、今後の進路学習に生かせようと、話してくれました。

職場体験をした中学生の感想

改めて働くことがどれほど大変なことかを知りました。作業員さんたちは、発掘現場で働く方も、三田洞の整理所で働く方もとてもきびきびとしていて、「毎日やっているのにすごいなあ。」と感じました。

僕自身は、1日目の発掘作業がとても楽しく、遺物が出土したときは、すごくうれしく印象に残っています。担当してくださった先生も言ってみえましたが、働くというのはお金をたくさんもらえることにこしたことはないけれど、それよりも、実際に職場体験をして、自分にあった楽しくやりがいのある仕事を見つけることが大切なんだと思いました。



整理体験



発掘体験



作業手順を聞く生徒

開催期間：平成20年11月18日(火)～平成21年1月12日(月・祝)
 開館時間：午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)
 休館日：毎週月曜日
 会場：岐阜県博物館(岐阜県関市小屋名 百年公園内) 本館3階 特別展示室
 入館料：一般320円(260円) 大学生110円(50円) 高校生以下無料
 ()内は20名以上の団体料金

近日開催

当センターが実施した発掘調査の成果を紹介する「発掘速報展—発掘された飛騨・美濃の歴史—」を開催します。今年度は、飛騨・美濃合わせて4つの遺跡から選んだ約240点の出土遺物を展示します。飛騨地方最多の木器が出土したことで注目される野内遺跡の木製農具などを、初めて公開します。会期中には、関連イベントとして、愛知教育大学の西宮秀紀氏による講演会も予定しています。皆様、お問い合わせの上、ぜひご来場ください。

1 のうち 野内遺跡(高山市上切町)

高山盆地北西端の山麓沿いに広がる大規模な複合遺跡です。平成14年度から18年度にかけて23,900㎡の発掘調査を実施しました。縄文時代から近世に至る幅広い時代の遺構・遺物を発見していますが、特に古墳時代と平安時代の2時期の水田跡や、古墳時代から平安時代にかけての集落跡の調査において、大きな成果を収めることができました。出土遺物で特に注目されるのは、水田跡から出土した木器、古墳時代初頭の竪穴住居跡から一括出土した土師器、平安時代の集落跡の土器類と役所関連遺物などです。

木製農具をはじめとする多彩な木器



ナスビ形四又鍬出土状況

野内遺跡では、破片で数えて約2万6千点にのぼる木器類が出土しました。特に注目されるのは、古墳時代の水田跡から出土した農具類です。なかでも鍬は、ナスビ形(へタを持つナスビのような形)の四又鍬をはじめ、様々な形のものを確認しています。平安時代の水田跡からは、下駄や曲物など日常用具も多数出土しました。



ナスビ形鍬



下駄

平安時代の土器類など

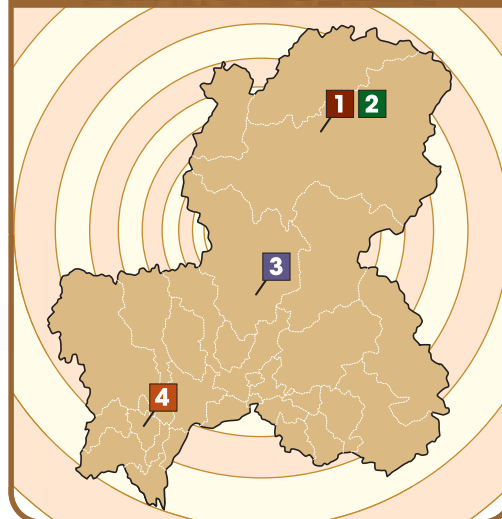
平安時代には水田跡に隣接する区域に集落が営まれており、須恵器・灰釉陶器をはじめとする大量の土器類が見つかりました。他地域からの搬入品もみられますが、大部分は在地の窯で焼かれた製品です。

この時期の出土遺物には墨書土器・円面硯など文字の使用にかかわるものや、石製の巡方(役人の衣装の帯飾り)のような役所に関連がある特殊品、それに高級陶器の緑釉陶器などがみられます。このことから、一般的な集落というよりは、役所と何らかのかかわりを持った人々の居住域だった可能性があります。



円面硯

紹介する遺跡の位置



古墳時代初頭の土師器

古墳時代初頭の竪穴住居跡から、土師器の甕や高坏がまとめて出土しました。興味深いことに、1軒の住居跡内に東海系、信州系、北陸系の甕が共存していました。周辺地域との盛んな交流をうかがうことができます。



甕

講演会のお知らせ

講師 西宮秀紀氏(愛知教育大学教育学部教授)
 演題 古代美濃の国と税制
 日時 平成20年11月29日(土) 13:30~15:00
 岐阜県博物館ハイビジョンホール

2 ひら ウバガ平遺跡(高山市上切町)

平成13年度と19年度に発掘調査を実施しました。縄文時代から古墳時代にかけての集落跡を確認したほか、古墳時代後期の古墳4基を発見しました。出土遺物では、弥生時代中期の在地の土器である横羽状文甕(外面に横方向の矢羽状模様を飾る独特の甕)が注目されます。



横羽状文甕

3 ありさか やくし どう 有坂薬師堂遺跡(郡上市八幡町)

長良川右岸の河岸段丘上にある縄文時代の遺跡です。平成19年度に調査を実施しました。配石遺構や石棒類の多様な出土状況を確認し、縄文時代中期後半から晩期前半にかけての長期間にわたり、祭祀や儀礼的な空間として利用された可能性があることがわかりました。飛騨や信州との文化交流の一端も確認できました。



石器類

4 あら おみなみ 荒尾南遺跡(大垣市荒尾町・松町)

平成18年度から調査を行っている大規模な遺跡です。数多くの方形周溝墓や竪穴住居跡とともに、大溝や水田跡を確認しました。弥生時代中期には整然と並ぶ方形周溝墓で構成される大規模な墓域であったこの場所は、弥生時代終わり頃からは大規模な集落へと変化していく様子が分かってきました。



方形周溝墓から出土した弥生土器

縄文時代の食について

～トチの実のアク抜き技法から～

柏木 賢一



トチの実を生で嚙ったことがありますか。私は小さな破片ですが嚙って見たところ、ものすごい渋みと苦みがしばらく続き、吐き気をもよおした経験があります。これはトチの実に含まれるアク(非水溶性サポニンやアロイン)が原因です。

縄文時代の遺跡からはクリ、クルミ、ドングリ類、トチなどの実や殻が出土します。これら食用と考えられる木の実のうち、特にトチの実は多量に採集できるうえ、粒が大きくカロリーが高い魅力的な食材です。ただし、アク抜きする必要があり、それには様々な道具や設備、知識や手順を踏まえて作業しなければなりません。

ここでは、一連の流れを証明することが難しいなかで、発掘された遺構や遺物などの発見例や、手掛かりになっている事例や研究などを紹介します。

現代に受け継がれている作業工程は、①採集→②虫殺し(水さらし)→③カラカラになるまで乾燥(10年程でも保存できる状態)→④湯水に浸す→⑤皮むき(あと、製粉する場合もあり)→⑥煮沸(灰または苛性ソーダと一緒にに入れて粥状になるまで煮る)→⑦水さらし(布で覆ってさらす)→⑧布を絞る(トチ粉のテンブンの完成)の順になります。このうち、①～③はトチの実を長期保存するために必要な処理、④～⑤は外殻や内皮を取り除く工程、⑥～⑦がアクを抜いて食用とするための重要な工程になります。

中道遺跡(新潟県長岡市)で発見された第51号住居跡は、縄文時代中期後葉のもので、火災で焼失したときに網籠状のものに入れられたトチの実500粒以上が床下にまとまって落ち、炭化した状態で発見されています。おそらく③の乾燥工程ではないかと考えられ注目されています。

⑤外皮を取り除く作業では、お湯で柔らかくしてむき易くすることと、白川村の民俗事例で使用されていた実を置く台石とトチムキ石がヒントになり、縄文時代の竪穴住居内の石囲炉の一面に置かれた平石が皮むき作業にも使用されたのではないかと考えられています。

⑥煮沸作業では、竪穴住居内であれば石囲炉と土器で煮沸し、アク抜き用の灰が確保でき、作業に必要な大量の灰を貯めておくこともできます。アク汁(灰と水を混ぜたもの)とトチの実を土器に入れて、煮込みながら粥状にできます。

⑦水さらしは、処理したトチ粉を流水にさらしてアクを除去する工程です。縄文時代の水さらし場遺構は全国(東日本のみ)20ヶ所(縄文時代前期～晩期)で発見されています。その1例がカクシクレ遺跡(高

山市丹生川町)の縄文時代晩期のものでした。当地は山中からの湧水を集めて流れ出る小川の中ほどに位置し、常に流水が供給されて



水さらし場遺構
(高山市丹生川町カクシクレ遺跡A地点)

いる場所の地面に板状の木組みが設置されており、アク抜き作業するのに適地であったと考えられます。

このように、近年まで山村集落の重要な食料としてトチの実が利用されてきましたが、その源は縄文時代にまで遡ることができます。しかし、縄文時代の人々がいつから技術を習得・発展させて食料増産に結びつけてきたのか、については今後の発掘調査の成果や科学分析の発展によって解明されることになると考えます。

なお、灰以外でアク抜きする民俗事例としては、灰なしで①～⑥までの工程を行ったうえで、⑦の段階で潰した渋柿や発酵させた柿渋を混ぜて数日間、流水に漬けておく方法と乾いた草の上に筵を敷き、水を加えた半練りの状態のトチ粉を置き、更にその上に筵を何枚も敷いて養生するとトチ粉が発酵してアク抜きができます。

これらについては、そのまま縄文時代に根源を求めのではなく、研究や発掘事例の蓄積がなければ縄文時代に使用した、と説明することはできません。

〈参考文献〉

- ・財団法人 岐阜県文化財保護センター
1997『カクシクレ遺跡』
- ・渡辺 誠
1983『縄文時代の知識』考古学シリーズ④
- ・駒形 敏朗
1999「新潟県長岡市中道遺跡」『月刊考古学 ジャーナル』No.447
- ・岡村 秀雄
1995「貯蔵穴と水さらし場」『季刊考古学』第64号

発掘調査報告会

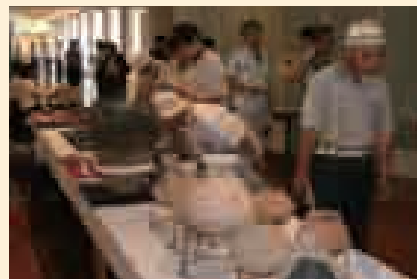
■ 平成20年度岐阜県発掘調査報告会 7月12日(土)

毎年この時期に、県民の皆様へ埋蔵文化財に対する理解を深めていただくために、県内の発掘調査の報告会を行っています。今年度は「みのかも文化の森 美濃加茂市民ミュージアム」で開催されました。昨年度実施された県内3か所の遺跡の発掘調査と1か所の史跡復元整備事業の報告が行われました。

当日は、県内外から158名の参加者があり、熱心に報告を聞かれ質問をされる姿や展示遺物を熱心に見られる姿がありました。



調査結果の報告



遺物展示を見る参加者



- 事例報告Ⅰ 大垣市 荒尾南遺跡(当センター)
- 事例報告Ⅱ 美濃加茂市 小貝戸2号古墳(美濃加茂市教育委員会)
- 事例報告Ⅲ 郡上市 有坂薬師堂遺跡(当センター)
- 事例報告Ⅳ 飛騨市 江馬氏城館跡復元整備事業(飛騨市教育委員会)

現地説明会の報告

■ 広畑野口(ひろはたのぐち)遺跡 (各務原市蘇原青雲町) 現地説明会 7月26日

今年度は、昨年度に実施した発掘調査場所の北側と西側に接する地区の調査を行いました。昨年度の調査で確認した8世紀前半の掘立柱建物跡2棟の北側に続く柱穴などがみつき、建物の規模を確認することができました。

昨年度発見した遺構を合わせると主な奈良時代の遺構は、掘立柱建物跡7棟、柵跡2列、多量の須恵器が出土した土坑群1か所となりました。建物跡の内側には建物跡のない空間や建物を囲む南北方向の柵跡を確認でき、建物を含めた規則的な配列を確認できました。また、この建物群の周辺からは文書行政を行う役人の必需品である円面硯等の遺物が多く出土していることから、掘立柱建物跡群は官衙に関連する遺構の可能性が高いことが分かりました。説明会は114名の参加があり、古代の掘立柱建物跡や近世の井戸などを見学していただくことができました。



遺構説明



出土遺物展示会場

■ 三枝城(みえだじょう)跡 (高山市上切町) 現地説明会 10月4日

当日は秋晴れに恵まれ、地元高山市内を中心に県外からの参観者も含め120名のみなさんが、発掘調査の成果に触れてくださいました。

山城の麓では、今回の調査で新たに発見した礎石建物跡や、平安時代の盤や托などの須恵器が出土した平場の造成の痕跡を、熱心に見学される参観者の姿がありました。また、多くの参観者が、頂上近くの北東曲輪群まで汗をかきながら登り、曲輪や帯曲輪、尾根筋を削って造った平場などを見学すると同時に、戦国時代の人々と同じように眼下に広がる高山盆地や当時の主要道の峠口を見渡していました。

調査員の説明に耳を傾けるだけでなく、参観者からは、山城の造りやこの遺跡の歴史的な位置づけ、出土遺物、飛礫に用いられた川原石などについてたくさんの質問が出されました。調査員一同、このような参観者の興味・関心の高さに驚くと共に、自分たちの仕事の持つ意味の大きさを改めて実感しました。



全体説明



北東曲輪の見学

ミニ展示会を行っています

当センターでは県内の遺跡について、広く県民の皆様様に理解していただき、埋蔵文化財に関する興味・関心を高めていただくために、県内3か所です定期的に展示を行っています。現在、県政資料館(山県市)では、「鎌倉時代の遺跡ってどんなもの?」～船山北古窯跡～の展示を行っています。船山北古窯跡は各務原市に所在する遺跡で、平成5年から8年にかけて調査しました。平安時代から鎌倉時代の窯5基を確認し、特に鎌倉時代の窯からは文字を刻んだ陶器や多種の仏具類が見つかりました。展示では確認した窯の写真や出土品をいくつか紹介していますので、ぜひご覧ください。
(展示期間は12月25日まで)

ミニ展示、今後の予定

平成21年3月まで、ミニ展示を下記のように開催します。
●「鎌倉時代の遺跡でアツ発見!」(柿田遺跡 可児市)
ふれあい会館(岐阜市)・・・10月2日～12月25日まで
県政資料館(山県市)・・・12月25日～21年6月まで
●「技にみる美濃・飛騨の縄文時代(仮)」
ハートフルスクエア-G(岐阜市)21年2月上旬より



センター日誌

- 7月12日(土) 発掘調査報告会(美濃加茂市) 158名参加
- 7月22日(火)・23日(水)
夏休みキッズ考古学―土器づくり―(三田洞事務所) 26名参加
- 7月24日(木) タイムスリップ探検隊―親子で発掘体験―三枝城跡(高山市) 35名参加
- 7月26日(土) 広畑野口遺跡現地説明会(各務原市) 114名参加
- 7月31日(木) タイムスリップ探検隊―親子で発掘体験―岩田西遺跡(岐阜市) 48名参加
- 8月6日(水) 明宝地域子ども教室「歴史教室」(郡上市明宝) 6名参加
- 8月6日(水) 荒尾南遺跡見学(西濃地区高校公民地歴部会) 10名参加
- 8月7日(木) 岐阜県教育委員会ふるさと講座(三田洞事務所) 20名参加
- 8月20日(水) 夏休みキッズ考古学―野焼き体験―(三田洞事務所) 24名参加
- 8月20日(水) 岐阜市立藍川中学校2年生4名職場体験(岩田西遺跡)
- 8月22日(金) 荒尾南遺跡見学(本巣市小中社会科研究会) 20名参加
- 8月29日(金) 三田洞事務所見学(岐阜市小社研資料研究委員会) 11名参加
- 9月29日(月)～10月3日(金)
高山市立国府中学校2年生2・4名職場体験(飛騨出張所・三枝城跡)
- 9月30日(火) 大垣北高校生徒9名見学(荒尾南遺跡)
- 10月4日(土) 三枝城跡現地説明会(高山市) 120名参加
- 10月7日(火)・8日(水)
岐阜市立岩野田中学校2年生2名・長森南中学校2年生7名職場体験
(岩田西遺跡・三田洞事務所)
- 10月15日(水)～17日(金)
下呂市立金山中学校2年生1名職場体験(下切遺跡)
- 10月18日(土) 下切遺跡現地説明会(下呂市) 223名参加
- 10月21日(火)～23日(木)
岐阜市立三輪中学校2年生2名職場体験(岩田西遺跡・三田洞事務所)
- 11月1日(土) 岩田西遺跡・中屋敷遺跡現地説明会(岐阜市)



あとなぎ

遺跡の調査の中で、先人たちの祈りを感じることがあります。
荒尾南遺跡では、これまでの調査で祭祀に関連する遺物が多く見つかっています。弥生時代に生きた人々にとって、生きることは容易でなかったはず。天変地異の恐怖から逃れ、豊穡な実りや安寧な生活を祈る人々。宗教的な儀式によって集落の秩序を形成し集団生活を統治する為政者……。当時の人々は、火や水や大地、空や雲や風、太陽や月や星に神秘的な力を感じ、自然を恐れ崇拜し、その力に畏敬の念を強く持っていたに違いありません。祈りや信仰、神とつながる祭祀が生活の一部であり、彼らの行動さえも規定していたことでしょう。
テレビやコンピュータ、携帯電話にどっぷりと漬かった我々は、人間としての根源的な感性や情緒を置き去りにしているような気がします。「お天道様が見ている」「罰(バチ)が当たる」といった素朴な宗教的規範意識も失われつつあるのではないのでしょうか。
出土した遺構や遺物の客観的な分析はもとより、その時代に生きた人々の生活、考え方や心のあり様を想像することは、今の生活を考える上でとても大切であるように思います。

Center News

ホームページ
<http://www.g-kyoubun.or.jp/maibun/>

三田洞事務所 〒502-0003 岐阜市三田洞東1-26-1
TEL. 058-237-8550(代) FAX. 058-237-8551
e-mail: bunzai@g-kyoubun.or.jp

飛騨出張所 〒509-4122 高山市国府町名張字峠1425-1
TEL. 0577-72-4784(代) FAX. 0577-72-4690
e-mail: bunzai-hida@g-kyoubun.or.jp